

🍴 かまいしキッチンカープロジェクト

<http://k2cp.jp>



株式会社釜石プラットフォーム —7年の軌跡—



1 非営利型株式会社 釜石プラットフォームの設立

2011〔平成23〕年3月11日の東日本大震災から10カ月が経過した2012〔平成24〕年1月11日、株式会社釜石プラットフォーム（以下KPF）は非営利株式会社として設立されました。

KPFは、日本初の非営利型株式会社として2004〔平成16〕年4月に設立されたプラットフォームサービス株式会社（PS社）にならって、釜石のまちづくり会社としての使命を担うことを目的とし、代表取締役には大町商店街振興組合理事長の小田島圭司、取締役にはPS社の顧問で釜石まちづくりアドバイザーを務める枝見太朗と、被災飲食事業者であり、かまいしキッチンカープロジェクトの中心的存在である三塚浩之が就任しました。

その出資にあたっては、「被災者の痛みを共有する」「顔の見える支援」「長期的なかかわりを持つ」「配当は感謝」を呼びかけ、20名を超える出資者の賛同をいただきました。

KPFは、そのミッションとして以下を掲げました。

- ・釜石市における被災飲食事業者の自立的復興の支援
- ・釜石市復興のための街のにぎわいづくり
- ・釜石市復興に向けた対外的PR戦略
- ・コミュニティビジネス的飲食業インキュベーションのノウハウ創出
- ・避難所、仮設住宅居住者への飲食機会提供による支援
- ・各種復興イベントへのサポート
- ・キッチンカー製作など、他分野産業への事業創出
- ・水産業など他業種とのコラボレーション

具体的には、「まちのグランドデザイン」についての意見集約、懇談会の開催などの各種まちづくり支援、飲食事業を中心とした産業復興支援、商店街復興支援、地域ブランドの開発、漁業（牡蠣養殖）の復活といった活動を進めていくことになりました。

また、先行してスタートしていた「キッチンカープロジェクト」についてはその運営を全面的にサポートするとともに、被災した牡蠣養殖事業者の支援体制の確立と釜石ブランドとしての構築を目指す「里海プロジェクト」、さらには国土交通省の補助事業、復興庁の「新しい東北」先導モデル事業などに採択され、復興事業の推進に尽力してまいりました。

本報告書では、7年にわたる釜石プラットフォームの活動実績を取りまとめます。

2 キッチンカープロジェクトの構想とその展開

2-1 キッチンカープロジェクトの構想

2011〔平成23〕年3月11日14時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生。岩手県釜石市では震度6弱を記録し、その数分後にはおよそ9.3m（釜石港湾合同庁舎の痕跡）にも達する巨大津波がまちを襲いました。市内の死者行方不明者は1000人を超え、被災戸数（全壊）はおよそ3000戸、基幹産業である水産業は総額200億円超という大きな被害を受けました。

【キッチンカープロジェクト年表】

- | | |
|-----------|--|
| 2011〔H23〕 | 3.11 東日本大震災発生 |
| 4 | CPSに復興支援オフィス開設
PS釜石事務所開設 |
| 5 | 野田武則釜石市長、PS訪問
プロジェクト準備委員会発足
PSより、キッチンカー3台の調達と現地への搬入 |
| 6 | 業者選定基準、車両仕様、各種運営規定を策定。2台がモニタリング販売開始
大和リースよりユニットハウス寄贈、一次加工場兼プロジェクトのシンボルセンターとして活用
被災し、営業店舗が全壊した2事業者が参加してプレオープン |



キッチンカープロジェクトは、「よみがえれ！釜石」を合言葉に、市内の中小飲食事業者を支援し、雇用の場を確保してその自立的復興を目指すとともに、官民連携による事業プラットフォームを創生し、持続可能な地域の活力を新たに生み出すことを目標として立ち上がりました。事業の中心となったのは、財団法人釜石・大槌地域産業育成センター（以下育成センター、2013〔平成25〕年に公益財団法人に改組）と、東京都千代田区の「ちよだプラットフォームスクウェア（以下CPS）」を拠点にエリアマネジメントのノウハウを蓄積し、地域の再活性化の推進役を担ってきたPS社です。将来的には、地域内外から“志ある投資”を募り、事業の運営母体として、釜石に非営利型まちづくり株式会社を設立することも視野に入れてプロジェクトは動き出しました。

キッチンカープロジェクトでは以下の3つのステージを設定し、それぞれに目標を定めて段階的かつ持続的な事業展開を目指しました。

(1) 第1ステージ：Phase1「絆」

- ・官民連携によるキッチンカー事業の仕組みづくりとそのモデル化
- ・ビジネスノウハウの移転とキッチンカー事業者支援のための仕組みの組成

(2) 第2ステージ：Phase2「連帯」

- ・屋台村プロジェクトの検討（冬の寒さ対策）

(3) 第3ステージ：Phase3「希望」

- ・営業の安定化、定着化を図る
- ・プロジェクト事業者→飲食店オーナーという起業支援サイクルとサポート体制を構築
- ・新たな雇用の場を確保し、持続可能な地域活力の創出を目指す

2-2キッチンカープロジェクトの事業展開

(1) 第1ステージ：Phase1「絆」

キッチンカープロジェクトは、協議と調整を重ねた結果、釜石市との協働事業としてスタートを切りました。実施主体は釜石市の外郭団体である育成センターで、ただちに準備会を設置。震災後約2カ月後の5月13日に第1回の会合を開催し、運営に必要な規程や予算、事業形態などが具体的に話し合われました。

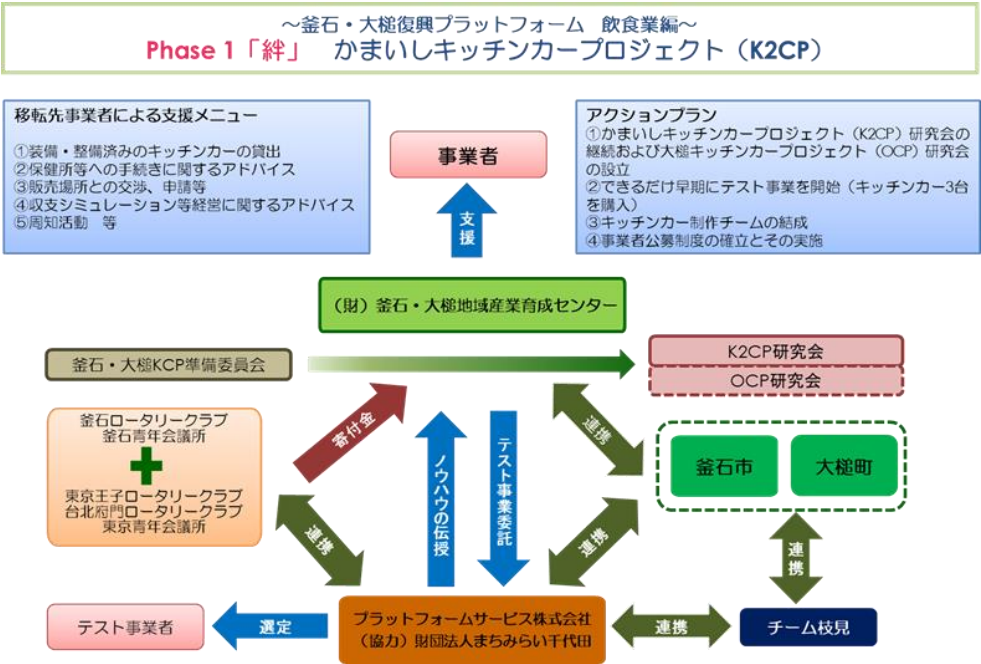
その目標は、「参加する飲食事業者がキッチンカーを通じて事業を再開し、いずれは実店舗の開店を目指すこと。元々飲食事業者でなくても、釜石の復興のために新たに起業したい人には門戸を開くこと。事業者がある程度の費用負担をすることによって、プロジェクト自体の財政的自立を目指すこと」としました。

2011 [H23]	7	平成23年度第1回検討会開催 釜石・大槌地域産業育成センターにて事業者公募を開始 第1次事業者選定委員会にて、新たに4事業者が採択。車両内装改造・保健所申請等整備 平成23年度第2回検討会
	8	第一次加工場（ユニットハウス）が完成 釜石復興祈願祭にて、6事業者によるグランドオープン
	9	かまいし屋台営業検討開始
	12	試作屋台完成、プレオープン
	1	非営利型の株式会社釜石プラットフォームが設立 かまいし屋台村グランドオープン
2012 [H24]		

準備会はプロジェクトの本格始動のタイミングで発展的に解散し、新たに検討会を設置。メンバーは地元の産業関係者（観光物産協会、社会福祉協議会、商工会議所、青年会議所、自動車整備振興会、岩手県食品衛生協会、ロータリークラブ、水産振興企業組合など）、行政（市、県）、学識経験者、民間企業（PS社）などで構成し、事業者の公募・選定、運営規定や実施要領の策定、営業場所など運営全般を協議するとともに、官民連携による釜石の今後の復興についても話し合う場としました。

東京ではPS社が中心となり、青年会議所や王子ロータリークラブ等の支援を得て中古のキッチンカーを3台用意し、5月21日CPSで出陣式を行い、陸路釜石に向けて出発しました。

キッチンカーとして営業するには、厨房や換気扇等の整備のための改造、保健所などへの営業許可申請、陸運局への登録などさまざまな準備と時間が必要です。初めてのことで決してスムーズに進んだわけではありませんでしたが、震災後わずか90日後の6月9日、まずは2台によるモニタリング営業を開始することとなりました。



まだ、がれきが散乱する街なかではありましたが、用意した弁当、カレーの各30食は開始から30分も経たないうちに完売となり、キッチンカーによる飲食事業の取り組みに自信を持つことができました。その後もキッチンカー事業者はモニタリング営業を行いながら、CPSで開催された事業研修会にも参加し、ノウハウやテクニク、リスクや課題などについて学び、その様子はニュース番組でも報道されました。

一方、被災直後からPS社は釜石での活動拠点を探していました。釜石漁港の近くに津波による甚大な被害を受けた市営ビルがあり、1・2階は津波により甚大な被害を受けたものの、3階のオフィス部分は何とか使用できる状態であったため、4月25日、ここに釜石事務所をオープンしました。また、大和リース株式会社から中古のユニットハウスを寄贈いただき、キッチンカー事業者の一次加工場所と事務所スペースとして活用することとなりました。

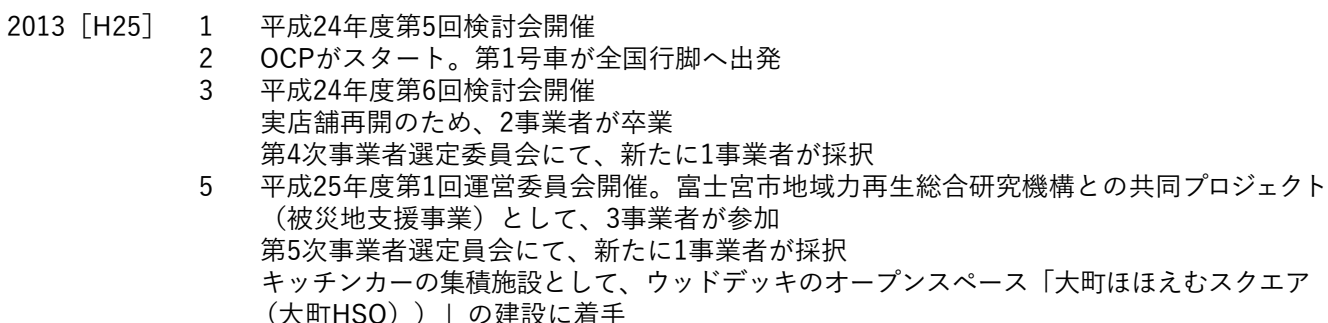
- 2012 [H24]
- 3 実店舗再開のため、1事業者（リヴァル）が卒業
 - 4 かまいし屋台村、営業場所の再開発に伴い休止
 - 5 実店舗再開のため、1事業者が卒業
 - 6 平成24年度第1回検討会を開催
 - 7 第2次事業者選定委員会にて、新たに2事業者が採択
 - 8 平成24年度第2回検討会開催
 - 9 平成24年度第3回検討会開催
 - 10 第3次事業者選定委員会にて、新たに3事業者が採択
 - 11 平成24年度第4回検討会開催
 - 12 大槌キッチンカープロジェクト（OCP）、事業者面談

こうして8月11日の釜石復興祈願祭を迎え、市内の目抜き通りであった青葉通りを拠点として6台のキッチンカーがグランドオープン。当日はお盆休みで帰省される方も多く、まちに明るさとにぎわいが戻り、官民連携によるプロジェクトのPhase1にとって願ってもないスタートとなりました。

さまざまな困難を乗り越え、キッチンカーはその機動力を生かして被災地を縦横無尽に走り、被災者に美味しさと希望をお届けするとともに、各地のイベントにも積極的に出店。自立的復興を目指して地道に取り組むその姿は、各方面で話題となりました。

夏にスタートしたプロジェクトは、Phase2として、本格的な冬の到来に備えた寒さ対策を講じるため、キッチンカーに付設する屋台を製作し、屋台村としての展開を図ることとなりました。参考にしたのは、マイナス20度という極寒の北海道帯広市で行列ができるほどのにぎわいを見せている屋台村「北の屋台」です。11月下旬には研修会ツアーを行い、各事業者がそれぞれ気づきやヒントを得ることができ、寒り多い機会となりました。

その後試作の屋台が完成し、キッチンカーに付設させて不具合等を確認、改善を施したのち、12月末に2台でプレオープン。翌2012〔平成24〕年1月、4台で「かまいし屋台村」がグランドオープンしました。寒く暗かった街なかに明かりが灯り、「浜ゆで毛蟹フェア」や「早採りわかめフェア」などのオリジナルイベントも好評を博しましたが、青葉通り地区の再開発に伴い、同年4月に休止を余儀なくされました。





【大町ほほえむスクウェアの誕生】

屋台村の休止を受け、Phase2の実現に向けて新たなコンセプトで開発したのが、「大町ほほえむスクウェア（大町HSQ）」です。「母港（ドック）に寄港するキッチンカー」を基本構想として企画・開発を進め、キッチンカーの機動力を生かして仮設住宅やイベント等で飲食を提供するだけでなく、安定した営業場所を確保することによって、中心市街地の活性化とにぎわい空間の創出を目指しました。

企画については、屋台村オープンと機を同じくして設立したKPFを中心に、プロのデザイナーを中心としたボランティア集団であるほほえむデザイン研究所、PS社、育成センターが参加して、さまざまな面から検討を重ねました。候補地の土地所有者との賃貸借契約も順調に進み、建設にあたっては、地元の製材所や建設会社など多くの方々から物心両面にわたる支援をいただきました。そして2013〔平成25〕年6月2日、大町HSQはグランドオープンを迎え、以降自主企画イベントのほか、パブリックビューイング、地元のラグビーチーム「釜石シーウェイブス」主催のビデオサロン、地場産野菜市、ミュージックライブなど市民参加型の各種イベントも開催しました。

また大町HSQは、公益財団法人日本デザイン振興会主催の2013年度グッドデザイン賞（街づくり、都市づくり部門）、ならびに地方新聞社と共同通信社が地域づくりに取り組む団体を支援・選定する「地域再生大賞」の第4回において優秀賞を受賞します。

こうして釜石のまちのにぎわい集積地としての機能を果たした大町HSQは、土地所有者との契約が満了したこともあり、2017〔平成29〕年3月をもってクローズしその役割を終えることとなりました。

（3）第3ステージ：Phase3「希望」

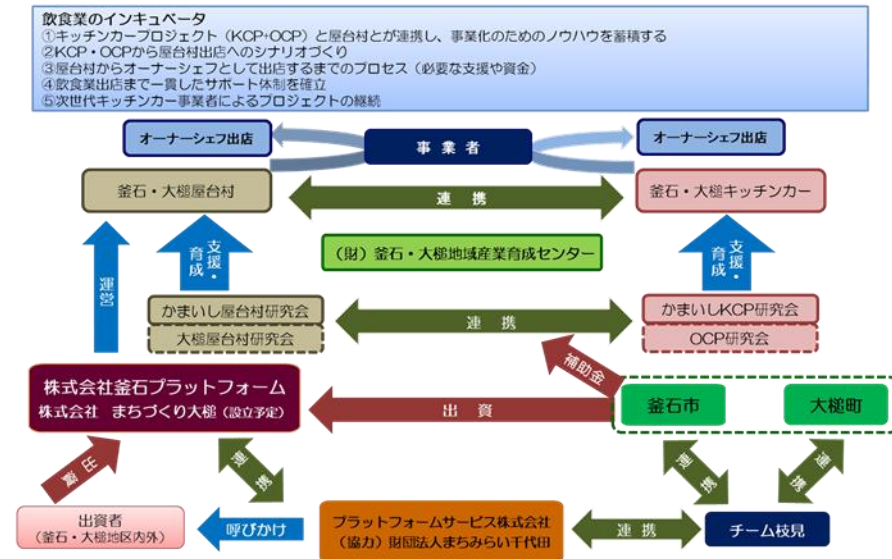
Phase3では、事業者が飲食店オーナーとして店舗の再開あるいは新規店舗の開店を目指すための、一貫したサポート体制の確立を目指しました。被災した飲食事業者の早期事業再開と、飲食業に挑戦したい起業家を支援し、インキュベータの役割を果たすため、事業者の公募・選定、自立的経営のためのノウハウ、各種研修会、事業者連絡会等を実施するとともに、内閣府所管の財政支援制度への応募や釜石商工会議所による研修プログラムの受講に対する支援等も行い、プロジェクトを推進しました。

本プロジェクトへの参加事業者数は、これまでに23事業者となりました。静岡県富士宮市の富士宮市地域力再生総合研究機構との共同プロジェクトや後述の三陸鉄道南リアス線沿線農山漁村地域活性化プロジェクトなどには、釜石市外の事業者も参加しました。

詳細は「キッチンカープロジェクト事業者一覧」をご参照ください。

2013 [H25]	6	大町HSQ、オープン
	8	大町HSQにガゼボ（あずまや風飲食スペース）を設置
	9	実店舗開業のため、1事業者が卒業 都合により、1事業者が脱退
	10	大町HSQが「2013日本グッドデザイン賞」を受賞
	3	富士宮市地域力再生総合研究機構との共同プロジェクトにより参加の3事業者が卒業 （うち1事業者は2015年に実店舗を開業）
2014 [H26]	4	平成26年度第1回運営委員会
	5	実店舗開業のため、1事業者が卒業
	6	新たに3事業者が参加

～釜石・大槌復興プラットフォーム 飲食業編～
Phase 3「希望」 飲食業インキュベータ



【おおつちキッチンカープロジェクト（OCP）】

2012〔平成24〕年に地元の社団法人おらが大槌夢広場が運営に参画することが決定し、OCPがスタートしました。その第一歩として、同法人のスタッフがキッチンカーで復興支援の感謝を伝える全国行脚を企画しました。2013〔平成25〕年2月から約2カ月をかけて、鹿児島からスタートして大槌町に戻る予定でしたが、車両の不具合等もあり中断を余儀なくされ、本格的な実施には至りませんでした。

その後大槌町との協議を進め、2017〔平成29〕年4月、同町と一般社団法人COLEREとの協働プロジェクトとして新たなスタートを切り、現在は町内で3事業者が営業中です。

2-3 国からの補助・受託事業について

本プロジェクトでは経済産業省および復興庁から採択され、以下の事業を実施しました。

(1) 釜石・大槌復興プラットフォームプロジェクト

【経済産業省／平成23年度ソーシャルビジネスノウハウ移転・支援事業〔被災地支援〕】

事業の受託者はPS社で、事業目的に前述の3つのステージを設定し、プロジェクトの運営主体となる育成センターへのノウハウ移転を実施しました。その内容は、飲食業による復興のためのプラットフォーム形成、中小飲食事業者の事業再開支援、新たな雇用の場の確保をはじめ、官民連携による地域再活性化のためのエリアマネジメントや運営母体となる非営利型株式会社の設立も視野に入れました。

また、プロジェクトの運営にあたり、官民連携による検討会の設置し、起業方法・販売方法・衛生管理・メニュー構成、経営や資金管理、キッチンカーの製作についても研究することで、本プロジェクトの事業モデルを確立させることを目指しました。

この事業構想を受けて、KPFが誕生しました。

2014 [H26]	8	平成26年度第2回運営委員会 1事業者がプロジェクトを卒業（他店舗店長に就職）
	9	大町HSQのガゼボ、ライトアップ完成
	11	実店舗開業のため、1事業者がプロジェクトを卒業
	12	大町HSQ、リニューアルオープン 平成26年度第3回運営委員会 都合により、1事業者が脱退
2015 [H27]	3	2事業者がプロジェクトを卒業（うち1事業者は実店舗を開業）
	4	「地域活性化と連携した国土強靱化の取り組み」連携事例集に取り上げられる 平成27年度第1回運営委員会 全国地方都市連携事業により、島根県邑南町、東京都千代田区にて3台が稼働中

キッチンカープロジェクト 事業者一覧

かまいしキッチンカープロジェクト

	店舗名	震災時の状況	参加理由	参加期間	提供メニュー	写真	現在
1	和つつ	飲食店経営【全壊】(釜石市在住)	実店舗営業再開までの営業を希望	2011[H23]年6月～ 2012[H24]年3月	[昼] チキンカレー 焼鳥丼 [夜]居酒屋メニュー		実店舗「和つつ」営業再開 → 2017年4月休業
2	はまゆい	飲食店経営【被害なし】(釜石市在住)	実店舗営業再開までの営業を希望	2011[H23]年6月～ 2013[H25]年3月	おかず3品弁当 サルサプレート		実店舗「HAMAYUI」営業再開 ／復興庁「復興ビジネスコンテスト2016」にて優秀賞を受賞→2016年12月復興計画により休店 2016年4月「Café Jonma」(大槌町)を新規開店
3	リヴァル	飲食店経営【半壊】(釜石市在住)	実店舗営業再開までの営業を希望	2011[H23]年8月～ 2012[H24]年3月	ホットドッグ ドリンク各種		実店舗「リヴァル」営業再開
4	新華園支店	飲食店経営【全壊】(釜石市在住)	実店舗営業再開までの営業を希望	2011[H23]年8月～ 2013[H25]年3月	釜石ラーメン 餃子		実店舗「新華園支店」営業再開
5	よつばや	飲食業以外に従事【被害なし】(釜石市在住)	飲食業での起業を希望	2011[H23]年8月～ 2014[H24]年5月	クレープ		実店舗「よつばや」新規開店
6	乾杯	飲食店経営【全壊】(釜石市在住)	実店舗営業再開までの営業を希望	2011[H23]年8月～ 2014[H24]年	[昼]ステーキ丼 鉄板焼き各種 [夜]居酒屋メニュー		都合により営業再開を断念
7	むすびや	飲食店舗経営【被害なし】(釜石市在住)	地元の農家仲間で共同経営を希望(地元農産物の普及)	2012[H24]年6月～ 2014[H26]年11月	五穀米弁当 野菜ヘルシー弁当		実店舗「アットホーム」営業再開
8	ハビスコービー	飲食業以外に従事【自宅(釜石市)が被災】(釜石市出身／東京都在住)	震災を機にUターン	2012[H24]年6月～継続営業中	自家焙煎コーヒー		実店舗開店準備中
9	もつきり屋ずん	飲食業以外に従事【職場(釜石市)が被災】(釜石市在住)	震災後飲食店を開業したが、復興工事で休業。飲食業の再開を希望	2012[H24]年10月～ 2013[H25]年9月	おでん 焼き鳥 各種ドリンク		都合により継続断念
10	バラたこ	飲食業以外に従事【被害なし】(釜石市在住)	飲食業での起業を希望	2012[H24]年10月～ 2014[H26]年8月	たこ焼き		飲食店勤務
11	Bar UP & DOWN DAY	飲食業以外に従事【被害なし】(釜石市出身／横浜市在住)	震災を機にUターンし、飲食業での起業を希望	2012[H24]年10月～ 2013[H25]年9月	ドリンク おつまみ		実店舗「Bar UP&DOWNDAY」新規開店
12	あったかや	飲食業以外に従事【被害なし】(首都圏在住)	定年後ボランティア活動の延長で移住、キッチンカー営業を希望	2013[H25]年3月～ 2015[H27]年3月	惣菜 手作りおべんとう		2年の活動を終え自宅のある首都圏へ戻る
13	BECK	飲食業以外に従事【被害なし】(釜石市在住)	飲食業での起業を希望	2013[H25]年5月～ 2016[H28]年3月	トンテキ丼 ステーキ丼 カレー フライドポテト		実店舗「BECK」新規開店
14	LOLLIPOP	高校生【自宅が被災】(	震災後釜石を離れたがUターン	2013[H25]年5月～ 2014[H26]年3月	富士宮焼きそば お好み焼き		富士宮市地域力再生総合研究機構との共同プロジェクト(被災地支援事業)、市内の宿泊施設に就職

	店舗名	震災時の状況	参加理由	参加期間	提供メニュー	写真	現在
15	天使の森	【被害なし】(大船渡市在住)	飲食業での起業を希望	2013[H25]年5月～ 2014[H26]年3月	富士宮焼きそば		富士宮市地域力再生総合研究機構との共同プロジェクト(被災地支援事業) 大船渡屋台村「天使の森」新規開店→2017年5月復興工事に伴い屋台村終了に伴い閉店
16	鉄板焼きトシちゃん	飲食店経営【被害なし】(山田町在住)	実店舗営業再開までの営業を希望	2013[H25]年5月～ 2014[H26]年3月	富士宮焼きそば		富士宮市地域力再生総合研究機構との共同プロジェクト(被災地支援事業)
17	満月	飲食業以外に従事【被害なし】(金石市在住)	オリジナルのお好み焼きに自信があった。インシャルコストが少ない移動販売に興味があった	2015[H27]年8月～継続営業中	お好み焼き 焼きそば		キッチンカーを買取り独立の準備中
18	番番屋	漁業に従事・飲食店経営【漁業被害】(大船渡在住)	三陸鉄道とタイアップした「吉浜駅」(無人駅)でのおもてなしと、域外でのPR活動に賛同	2014[H26]年6月～ 2016[H28]年3月	吉浜ラーメン うに炊き込みご飯		実店舗「吉浜食堂」新規開店
19	かまもちや(越喜来)	販売店経営【被害なし】影響なし(大船渡市在住)	三陸鉄道とタイアップした「越喜来」(無人駅)でのおもてなしと、域外でのPR活動に賛同	2014[H26]年6月～ 2016[H28]年3月	串団子 蒸し饅頭		イベント・催事でのみ物販を継続
20	恋し浜	漁業に従事【漁業被害】(大船渡在住)	三陸鉄道とタイアップした「恋し浜駅」(無人駅)でのおもてなしと、域外でのPR活動に賛同	2014[H26]年6月～ 2015[H27]年3月	恋し浜ホタテ焼き		実店舗「恋し浜ホタテデッキ」新規開店

おおづちキッチンカープロジェクト

	店舗名	震災時の状況	参加理由	参加期間	提供メニュー	写真	現在
21	Ce-Café	【全壊】(大槌町在住)	地元大槌町の賑わいとPRIに寄与しつつ、キッチンカーの機動力を生かした攻めの飲食業を目指して参加	2017[H29]年4月～継続営業中	鮭汁ラーメン アジアンランチ 中華ランチ		キッチンカーを買取り独立の準備中
22	テエ子ばあちゃん	【被害なし】(大槌町在住)	震災を機に多数のボランティアを食でもてなす専業主婦。飾らない郷土料理を再認識し、チャレンジ事業者枠で参加	2017[H29]年4月～継続営業中	郷土料理の各種ランチ		営業中
23	幸福や	【被害なし】(千葉県在住)	定年を機に移住。漁師をしながらヨソモノ視点で食を通じた地域貢献を目指す。チャレンジ事業者枠で参加	2017[H29]年4月～継続営業中	サンマ蒲焼丼 ドンコ唐揚げ丼		営業中

事務局所有車

	店舗名	震災時の状況	キッチンカーを始めた理由	キッチンカープロジェクト参加期間	提供メニュー	写真	現在
24	事務局(はまゆい)	—	キッチンカー「はまゆい」が卒業後、事務局所有のプロジェクトシンボルカーとしての役割を果たしている	2015[H25]年4月～継続営業中	蒸し桜満開牡蠣 金石コロッケ		キッチンカープロジェクト、里海プロジェクトのPR活動として、各地でのイベント等に出店し稼働中

全国地方都市連携事業

	島根県邑南町		農商工連携サポートセンター(島根県海士町)	正直屋
プロジェクト参加期間	2015[H27]年4月～継続営業中		2015[H27]年4月～継続営業中	2015[H27]年4月～継続営業中
提供メニュー	町内、首都圏イベントで活動		首都圏イベント時に海士町物産を販売	首都圏イベント・ケータリングサービスにて活動
写真				
現在	稼働中		稼働中	稼働中

(2) 南三陸沿岸復興プラットフォームプロジェクト

【経済産業省／平成24年度ソーシャルビジネスノウハウ・移転支援事業】

事業の受託者はPS社で、壊滅的な被害を受けた南三陸沿岸地域（釜石市、大槌町、陸前高田市）を対象に、飲食業、水産加工業、ホテル・旅館業、商店街における復興のためのプラットフォームを形成し、本プロジェクトのノウハウを生かして、中小飲食事業者の事業再開のチャンスを支援するとともに、新たな雇用の場の確保につなげることを目指しました。

釜石市では中小飲食事業者の自立的復興が進み、民間企業や公益団体からの寄付等により新たにキッチンカーを購入。市内外で開催されるイベントへの出店依頼も増加し、プロジェクトの知名度アップにもつながりました。大槌町、陸前高田市ではいずれも地元の一般団法人との連携とノウハウ移転を模索し、事業開始に向けた準備を進めることとしました。

さらに、復興まちづくりを担うKPFの自立化とエリアマネジメントを主導するための道筋をつくることを目指しました。

(3) 三陸鉄道とキッチンカーを利用した沿線農山村地域の活性化

【復興庁／平成26年度「新しい東北」先導モデル事業】

事業の受託者は三陸鉄道南リアス線活性化推進協議会（実施主体：KPF、育成センター、三陸鉄道株式会社）で、三陸沿岸地域の貴重な交通手段であり観光資源としての役割を期待されている三陸鉄道（以下三鉄）を基軸に、キッチンカーを活用した沿線農山村地域の活性化を目指しました。東日本大震災の発生により甚大な被害を受けた三鉄は、震災から5日目に一部区間の運転を再開させ、その後の復旧作業により2014〔平成26〕年4月に全線での運転再開を果たしました。その復活は「復興のシンボル」と称され、沿線地域活性化の起爆剤として期待が寄せられる一方で、赤字経営が続く課題は山積していました。

そこで本事業では、三鉄を地域の観光資源として位置づけ、キッチンカーを活用して、南リアス線沿線の駅を中心に、観光客と地域住民が交流する「にぎわい空間」を創出するとともに、6次産業化やツーリズムを組み合わせて地域ビジネスとして展開することを目的としました。釜石市より1事業者、大船渡市から新たに3事業者が参加し、地元の食材を利用したメニューを開発するとともに、三鉄南リアス線駅周辺イベントにて飲食・商品の販売を行いました。また、沿線の飲食店（釜石市／1店舗〔＝キッチンカープロジェクト卒業者〕、大船渡市／2店舗）が三陸鉄道とタイアップしてオリジナル弁当のメニューを開発し、企画列車にて提供販売を実施しました。企画列車は延べ11本、参加人数は400名を超えました。

さらに、三鉄を活用した防災教育プログラム「被災地学習ツアー」、6次産業化に向けたセミナー、「三陸鉄道でゆく“冬の吉浜”」モニターツアーを実施。そのほか県外イベントにも積極的に参加し、三鉄のPR活動を行いました。

2-4 キッチンカーを活用した全国地方都市連携事業

2014〔平成26〕年2月、千代田区と地方都市が連携する「ちよだフードバレーネットワーク会議」が開催され、参画する各自治体との交流が生まれました。「A級グルメのまち」をコンセプトにまちづくりを行う島根県邑南町は町内の飲食事業者支援に、離島ならではの魅力を発信し続ける島根県海士町は都内のイベントで、いずれもキッチンカーを活用することとなりました。

2015 [H27]	5	大町HSQ改修工事完了
	8	新たに1事業者が参加
2016 [H28]	3	3事業者がプロジェクトを卒業（うち2事業者は実店舗を開業）
		キッチンカー全国災害支援ネットワーク設立（K2CP、伊達の屋台〔宮城県石巻市〕、熊本ケータリングカー協会、株式会社ヒートウェーブ〔福岡県〕）
	12	キッチンカー全国災害支援ネットワーク for 熊本 4th「益城町テクノ仮設団地ふゆまつり」
2017 [H29]	3	大町HSQ終了
	4	OCPが本格稼働し、3事業者が参加
2018 [H30]	2	8事業者（全国地方都市連携事業の3台を含む）が稼働中



3 里海プロジェクト

3-1 被災した牡蠣養殖漁師の支援と水産業の復興を目指して

海洋立国・日本の中でも豊富な魚種の宝庫である三陸沿岸のリアス式海岸は、世界三大漁場のひとつとして知られています。しかし、この豊饒な海は2010〔平成22〕年2月のチリ地震による津波、2011〔平成23〕年1月の爆弾低気圧で大きな被害を受け、さらに東日本大震災による大津波で壊滅的な状態に陥りました。

釜石市室浜地区は三陸リアス式海岸のほぼ中央に位置し、栄養豊富な入り江で育てられた真牡蠣は春先の抱卵直前が最も美味しいとされ、これを「桜牡蠣」と名付け釜石ブランドとして定着させるべく、震災前よりさまざまなPR活動を行っていました。首都圏の消費者をターゲットに販路を拡大するため、2010〔平成22〕年2月にCPSで初の「いわて釜石 桜牡蠣フェア」を実施。漁師による蒸し牡蠣の実演販売など、生産者と消費者の“顔の見えるつながり”を重視した取り組みに関係者一同手ごたえを得て、翌年も開催の予定で準備を整えていた矢先に、震災により一切の計画はとん挫してしまいました。

室浜地区には震災前7名の牡蠣養殖漁師がいましたが、震災後はたった2名になりました。里海プロジェクトは、この2名の牡蠣漁師が、国の補助対象から外れながらも再起をかけて自力での挑戦を始めたことを契機に、両名への支援を行うとともに、「鉄と魚のまち・釜石」の基幹産業である水産業の復興を期して立ち上げたプロジェクトです。生産者（牡蠣養殖事業者）、消費者（里海サポーター）、牡蠣を販売していただく協力店（鮮魚店や飲食店など）が一体となった新たなネットワークの構築を目指しました。そして、2012〔平成24〕年10月に秋種の種付け作業を開始し、2013〔平成25〕年1月には、わずかながら震災後初の水揚げ収穫を実現させ、2月6日にはPS社とKPFの共催でプロジェクトのキックオフイベントを開催しました。

室浜の真牡蠣は、世界の標準である一年物に比べて育成に2年を要します。その後も順次種付け作業を行い、生産を軌道に乗せるべく地道な努力を重ねてまいりました。その一方で、漁業体験ツアー（種付けから収穫までの作業工程の学習、養殖場の見学、牡蠣剥き体験、試食会など）の実施、キッチンカーや大町HSQを活用した「牡蠣フェア」、全国屋台村連絡協議会との協働による「釜石フェア」の開催、ちよだフードバレーネットが主催するマルシェへの参加などを通して、生産者と消費者との直接的な交流を積極的に図りました。そしてこの取り組みに賛同し、牡蠣を販売・提供してくださる協力店を開拓し、販路拡大に努めています。

【里海プロジェクト年表】

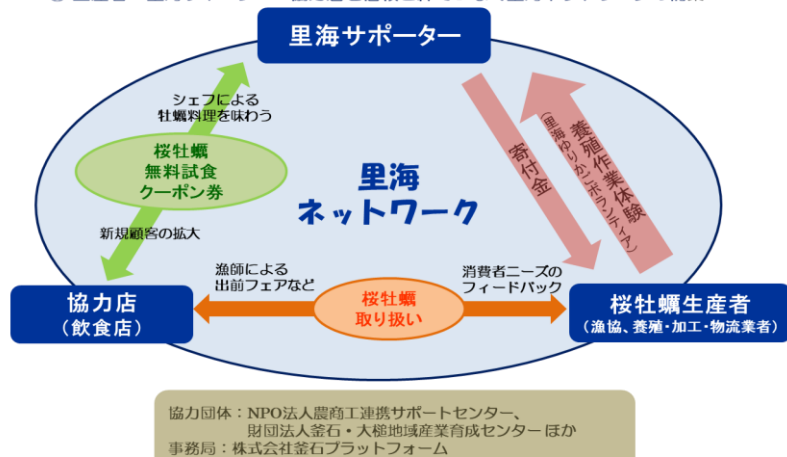
2011〔H23〕	3.11 東日本大震災発生
2012〔H24〕	8 里海プロジェクト発足
	10 震災後初となる「かまいし桜牡蠣」の秋種の種付け作業開始
2013〔H25〕	2 震災後初の水揚げが実現／キックオフイベント（CPS）開催 里海サポーター制度、協力店募集開始
2014〔H26〕	9 漁業体験ツアー（釜石市）
2015〔H27〕	1 【イベント出店】 横浜消防出初式2015（横浜市）
	2 漁港「かまいし桜牡蠣」（桜牡蠣大学校歌）発売 かまいし桜牡蠣大学開校式（千代田区）
	3 【イベント出店】 さくらフェスティバル（靖国神社）（千代田区）



里海プロジェクトの概念図

—私たちが目指すこと—

- ① 三陸養殖漁業の再起復興を起点とし、日本の海と里地里山を守る
- ② 製品の認知度向上による、産業振興のモデル化
- ③ 生産者・里海サポーター・協力店を信頼と絆でつなぐ里海ネットワークの構築



またWebサイトを活用し、生産工程や生育、出荷の情報の公開、牡蠣の剥き方講座として日本語・英語と手話通訳も加えた動画を配信するなど、積極的な情報発信を行っています。

さらに里海プロジェクトの連動企画として、2015〔平成27〕年2月、東京在住の釜石出身者、震災後に釜石でボランティア活動を行い釜石ファンとなったメンバー、KPFを含む地元の賛同者が、「漁師を講師とした“学びの場”」として「かまいし桜牡蠣大学（現在は「かまいし牡蠣大学」に名称変更）」を開講し、現在までに3回を実施しています。

スタートから2年をかけてようやく本格的な生産・販売体制にこぎつけていたものの、2016〔平成28〕年8月末、今度は台風により再び養殖場は甚大な被害を受ける事態となりました。漁港を埋め尽くした流木等を撤去して確認した牡蠣はわずか1割ほどで度重なる試練となりましたが、生き残った牡蠣を救出し漁師を支援するため、“かまいし桜満開牡蠣AID”への賛同を呼びかけたところ、多くの方々のご協力で目標を達成し、養殖事業を再開することができました。

なお、「かまいし桜牡蠣」は、2016〔平成28〕年より名称を「かまいし桜満開牡蠣」と改め、2017〔平成29〕年12月にはロゴマークも制定し、引き続き多くの皆様に愛される美味しい牡蠣を育て、釜石ブランドとして提供してまいります。

- | | | |
|-----------|----|---|
| 2015〔H27〕 | 4 | 【イベント出店】 有楽町さくらまつり〔千代田区〕 |
| | 5 | 【イベント出店】 神田祭前夜祭〔千代田区〕 |
| | 8 | かまいし牡蠣大学2限目／漁業体験ツアー〔釜石市〕実施 |
| | 10 | かまいし牡蠣大学3限目〔千代田区〕 |
| | | 【イベント出店】 東京味わいフェスタ2015〔千代田区〕 |
| | | 漁業体験ツアー〔釜石市〕実施 |
| | 12 | 釜石フェア at 宇都宮屋台横丁〔宇都宮市〕 |
| 2016〔H28〕 | 1 | 【イベント出店】 横浜消防出初式2016〔横浜市〕 |
| | | シンポジウム「三陸水産業の未来を考えるーオープンシティ釜石のチャレンジ」〔釜石市〕 |
| | 2 | 牡蠣フェアスタート（毎週土曜日、～5/28）〔釜石市〕 |



3-2 国からの補助・受託事業について

里海プロジェクトを基軸とした三陸水産業復興を目指した取り組みとして、国土交通省および復興庁から採択され、以下の事業を実施しました。

(1) かまいしフィッシャーマンズマーケット

【国土交通省／平成24年度「新しい公共」の担い手による地域づくり活動に関する非資金的支援に資するコンテンツ整備のためのモデル事業】

本事業は、①豊かな三陸の海をはぐくむ水産業を核とした産業振興、②水産事業者の意欲醸成による“釜石ブランド”の発掘・開発、③新たな流通・販路チャネルの開拓を視野に入れた生産者・消費者・飲食店のネットワーク構築とこれらを基軸とする釜石の復興まちづくりを目指すことを目的としました。

専門家からマーケティング、地域ブランド、フードビジネスの現状を学ぶ研究会を設置し、生産者・仲買業者・水産加工業者・廻来船問屋をはじめ、市の産業支援を手掛ける育成センターなどが一堂に会し、釜石ブランドの確立に向けて共通理解を得る機会としました。また、フレンチ料理のシェフやフードデザイナーとホタテの仲買業者とのマッチングを行い、これが新たな販路・流通チャネル開拓へとつながりました。さらには地元の水産加工業者と共同で、未活用資源であったカタクチイワシを材料とした「かまいしアンチョビ」の商品開発に向けて、その試作と事業計画の立案に取り組みしました。

(2) 三陸水産業の振興を基軸とした生産地・消費地の交流連携事業

【平成27年度復興庁／「新しい東北」先導モデル事業】

本事業では、①三陸海産物を用いたメニュー・商品開発と効果的な地域内消費のあり方、②地方中心・中小都市間の連携による一次・二次製品の具体的な販路開拓の可能性、③生産地と消費地が“食”を通して直接的につながる交流連携促進プログラムの作成を目指しました。

メニュー開発にはキッチンカー事業者も参加し、大町HSQを拠点とした域内消費のあり方について研究しました。また全国屋台村連絡協議会との協働で、栃木県宇都宮市や埼玉県深谷市で「釜石フェア」を開催し、地方都市との連携による販路の開拓を試行しました。

2016〔平成28〕年1月には釜石市内でシンポジウム「三陸水産業の未来を考えるーオープンシティ釜石のチャレンジ」を主催。研究者、漁師、産業関係者、行政関係者がパネリストとして参加しました。3月にはCPSにて、PS社、育成センター、公益財団法人まちみらい千代田との共催で、トークセッションと釜石フェアを開催し、釜石の現状を見て、聞いて、味わえるプログラムとして実施しました。

- | | | |
|------------|----|---|
| 2016 [H28] | 2 | 釜石フェア at 深谷屋台宿ふっちゃん横丁〔深谷市）
漁業体験ツアー〔釜石市）
震災から5年目を迎え、「かまいし桜牡蠣」より「桜満開牡蠣」に名称変更 |
| | 3 | 一よみがえれ 釜石ートークセッション&復活釜石フェア〔千代田区）
【イベント出店】 東日本大震災復興支援YOKOHAMAマルシェ〔横浜市）
【イベント出店】 千代田区さくらフェスティバル〔千代田区） |
| | 5 | 【イベント出店】 Oh! マチ Music Festa〔釜石市）／高崎人情市200回記念〔高崎市） |
| | 8 | 台風により養殖棚が壊滅的被害 |
| | 9 | かまいし桜満開牡蠣AID、賛同のお願い |
| | 10 | 【イベント出店】 東京味わいフェスタ2016〔千代田区） |



4 釜石市におけるまちづくり支援のためのコーディネート事業

2012〔平成24〕年1月の設立直後、KPFは国土交通省の地域づくり支援事業として「釜石市におけるまちづくり支援のためのコーディネート事業」に採択されました。本事業では、①釜石市のシーズの再発見とニーズの発掘に関する調査、②産学官民協働によるまちづくりグランド構築を実施しました。

①については、震災後市民を取り巻く環境が激変していることに鑑み、震災前と震災後のニーズ変化、それに対する対応策・改善策、および未来の釜石のイメージについて、釜石市民、釜石出身者（他県在住）、ならびに釜石に関心を持つ他県在住者の併せて170名を対象にヒアリング調査を実施。釜石の復興まちづくりに寄与することを目指しました。

②では、商店街の復興に寄与する店舗集積とにぎわい空間創出計画の策定、ならびに釜石の未来を担う「人財」の発掘と育成に取り組みました。

事業実施にあたっては、地元・釜石市でかねてより地域活性化に尽力してきた者、あるいは震災後Uターンして新しいまちづくりに貢献したいという意志を持つ者で、いずれも次代の釜石を担う30歳代の若者をコーディネーターとして位置づけ、まちづくりに対する自発的活動が醸成されるよう努めました。

KPFでは、これらの事業で得られた成果を、前述のキッチンカープロジェクトや里海プロジェクトを通して釜石のまちづくりに生かすために、さまざまな企画や実践に取り組んでまいりました。一例として、震災前からの喫緊の課題であった雇用の確保や商店街の復興への対応策の一助とすべく、キッチンカーを活用した飲食事業者の早期の自立的復興ならびに店舗再開までの支援体制の確立、飲食業に挑戦する起業家への各種ノウハウ提供、中心市街地活性化とにぎわい空間の再生を目標とした拠点開発（大町HSQ）を推進するとともに、基幹産業である水産業の復興と釜石ブランドの確立を目指しました。

また震災後UターンあるいはIターンなどで釜石に居住する者も増え、ボランティアコーディネート活動、祭りの復活、朝市の開催、釜石ブランドの開発など、若い世代を中心にさまざまなチャレンジが行われていますが、本事業にコーディネーターとして参加したメンバーもこうした活動にかかわっており、次代の釜石を支える人財となっています。

- | | | |
|------------|----|--|
| 2016 [H28] | 11 | 【イベント出店】 ちよだフードバレーネットワーク オータムマルシェ〔千代田区〕 |
| | 12 | 養殖棚海底調査を実施（被害状況把握） |
| 2017 [H29] | 1 | 釜石フェア@宇都宮屋台横丁〔宇都宮市〕 |
| | | 【イベント出店】 横浜消防出初式2017〔横浜市〕 |
| | 2 | かまいし桜満開牡蠣大学出前講座（第6回釜石応援サミット）〔渋谷区〕 |
| | 3 | 「桜満開牡蠣ができるまで」（Meetup Kamaishi 2017）〔釜石市〕 |
| | | 【イベント出店】 大槌復興支援マルシェ／スプリングマルシェ〔千代田区〕 |
| | 5 | 【イベント出店】 Oh! マチ Music Festa〔釜石市〕に出店 |
| | 7 | 養殖施設見学・湾内クルーズツアー〔釜石市〕 |
| | 8 | 高校生を対象とした漁業体験〔釜石市〕 |
| | 12 | シンボルマークを一新 |
| 2018 [H30] | 1 | 【イベント出店】 横浜消防出初式2018〔横浜市〕に出店 |
| | 3 | 【イベント出店】 大槌復興支援マルシェ／スプリングマルシェ〔千代田区〕に出店 |



5 プロジェクトのこれから

最後に、KPFが推進してきた以下のプロジェクトのこれからについて取りまとめます。

(1) キッチンカープロジェクト

釜石の2事業者については、自立経営に向けて既存の車両にて営業を続ける予定です。地域連携事業として進めてきた島根県邑南町、島根県海士町〔農商工連携サポートセンター所管〕についても、それぞれでキッチンカー営業を継続予定です。大槌町では、町と協働でプロジェクトを推進する一般社団法人COLEREが1台を所有、もう1台は既存の事業者が自立営業する予定です。また、本プロジェクトのシンボリックカーとして活動してきた1台は、KPFの事業を継承するべく、かまいし水産振興企業組合にて所有し、これまで培った地域連携のネットワークを保持しながら、地域力の発信ツールとして、また地場産品提供の舞台として活動いたします。2019〔平成31〕年のラグビーワールドカップ開催に併せて、JR山田線を引き継いだ三陸鉄道が全線開通予定で、沿線各地域の活性化が期待されています。

東日本大震災をきっかけにスタートとしたキッチンカープロジェクトで、私たちは自助と共助の大切さを学びました。さまざまな活動を通してつながった全国のキッチンカーグループや協力企業とともに、2016〔平成28〕年3月に宮城県石巻市にて、キッチンカーを利用した災害時の支援活動について合意形成を図りました。その翌月熊本地震が発生。釜石・石巻の東北メンバーが熊本・福岡の九州メンバーと合流し炊き出しを行うとともに、住民・行政・商工会との意見交換、ニーズ調査や地元被災飲食事業者の起業支援にも取り組みました。これまでの経験値を生かし、今後も志あるメンバーとともに活動を継続していきます。

(2) 里海プロジェクト

本プロジェクトで生産する「桜満開牡蠣」は、世界的な主流である1年ものに比して、2年を要することもあり、その生産を安定させるまでには時間がかかります。今後はかまいし水産振興組合が牡蠣養殖漁師を支援し事業を継承するとともに、これまでに築き上げた販売ルートや顧客とのネットワークを保持し、「かまいしブランド」としての地位をさらに高めるべく尽力してまいります。

KPFは2018〔平成30〕年6月をもって解散となりますが、プロジェクトはそれぞれ新たなステージで継続いたします。これらの活動が、釜石のまちづくりに寄与すると確信し、関係者一同今後も取り組んでまいります。これまでのご支援ご厚情に感謝申し上げますとともに、今後ともご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。





2018 [平成30] 年3月

株式会社釜石プラットフォーム

〒026-0001

岩手県釜石市平田3-75-1

公益財団法人 釜石・大槌地域産業育成センター内

TEL/FAX: 0193-27-8674

email: kpf.0111@gmail.com